

認定事業場

国際通信企画 株式会社

(横浜市港北区新横浜 1-19-2 京浜建物第 5 ビル 内)

代表者

代表取締役 堀 口 幸 男

認定日

平成 29 年 3 月 22 日

企業の概要

本企業は、昭和 58 年 2 月に設立され、前記・所在地に本社・事務所を置き、衛星通信、移動体通信、コンピュータネットワーク、インターネット、IP 技術、光通信、自主複合技術等のシステム開発・設計・検査・保守及び施工の事業を営んでいる。

事業活動の拠点施設は、上記 本社・事務所(労働者数:140 人)のほか、福岡支店(同:6 人)、北関東営業所(同:4 人)、沖縄営業所(同:2 人)を有している。

安全衛生に関する積極的な取組

1. 全社員・関係事業者 参加の「安全衛生会議」をはじめ、様々な打合せと意見集約の場を設定し、「ヒヤリハット報告と対策」「コスト改善」「品質改善」「原価低減」「1分1秒短縮提案」などの項目に対し、職場からの意見・要望・提案把握のしくみを整備し、労働安全衛生に関する方針・計画の周知徹底、職場意見等を労働安全衛生活動の充実に反映させる企業内環境を整備している

社員の安全と健康の増進に向け、経営トップが経営の基本理念として事業活動を通じた安全衛生の取組を経営の最重要課題とすることを掲げ、全社員や関係事業者が参加する「安全衛生会議」のほか、「安全衛生委員会」、「品質向上委員会」等を通じ、労働安全衛生の諸活動に関する行動指針・計画の徹底を図っている。さらに、社内イントラネットにより、情報共有や双方向の情報発信を可能とするしくみ、全社員が労働安全衛生活動に参加できる職場環境を形成して、進捗状況の把握と分析を経常的に行いながら労働安全衛生計画の着実な実施を図っている。

また、「改善提案」や幹部会主導で実施した「従業員満足度/業務意識に関するヒアリング」等の取組によって、業務の改善に向けた社員からの意見・要望・提案等の把握・集約を日常的に図り、意見・要望、改善提案の具体化を図るなど、ボトムアップによる職場意見等の反映によって労働安全衛生活動の充実を図っている。

2. 継続的なヒヤリハット事例/事故事例の把握・集約と分析を行い、リスクアセスメントをはじめとする労働災害防止対策の充実を図っている

ヒヤリハットや事故等の事例の日常的に把握・分析を行い、全社員・関係事業者が参加する安全衛生会議や各種会議の中で、対策を含めた情報の共有を図り、リスクアセスメントをはじめとする労働災害防止対策の充実を図っている。

3. 福利厚生制度の充実や社内設備の充実によって、日ごろから社員の健康確保・増進の取組を進めている

生命、医療、傷害保険の法人契約による医療面での手厚い補償制度があり、治療と職業生活の両立に向けた支援を要する社員への支援・援助を充実させているほか、社内に水素吸引と抹消血管観測設備等を持つH₂MC（水素健康管理センター）を設置し、福利厚生設備として提供するなどし、社員の健康確保・増進に向けた取組を具体化している。

4. 横浜型地域貢献企業の最上位認定を取得して地域志向CSR方針の明確化を図りつつ、健康保持・増進や安全に関する取組の見える化を図っている

雇用の面、労働安全衛生の面での積極的な取組への評価を含み、労働安全衛生、労働災害防止の面でもその管理・措置水準が高い企業を評価する横浜型地域貢献企業の最上位認定を取得、自社HP上に“安全衛生活動への取組み”を公開・紹介し、社員・名刺にロゴマークを載せるなど、労働安全衛生の取組の見える化を図っている。

安全衛生取組事例

弊社は長年培った技術と知識を基に衛星通信、移動体通信、コンピュータネットワーク、インターネット、IP技術、光通信そして自主複合技術など最先端のシステム開発、設計、検査、保守及び施工を行っております。その中で如何に安全を確保し、CS (Customer Satisfaction / 顧客満足) 度を上げることができるのか、全社員が一丸となって日々、安全衛生活動を推進しています。事故発生状況については見える化し、「労災」「設備」「交通」「情報」の4つのカテゴリー別に目標と発生件数を社内に掲示し、毎朝の朝礼で確認しています。



* 無災害記録表



* 毎朝の朝礼風景

◆安全衛生方針

1. 労働災害ゼロ・設備事故ゼロ・交通事故ゼロ・情報セキュリティ事故ゼロを目指し、全社員一丸となって安全衛生活動を推進する。
2. 安全衛生の重要性を理解し対策が実行されるよう教育を行う。

◆安全衛生活動の目標

1. TBM-KYの100%実施
2. DRMの100%実施
3. QSC (品質 Quality, サービス Service, クリーン Clean) 活動、環境整備活動を日々、徹底する。

◆年間安全衛生スローガン 「安全はすべての業務に優先する」

◆重点施策

1. 安全衛生管理体制の確立

安全衛生に関しては、「安全衛生会議（毎月）」、「安全衛生委員会会議（毎月）」、「品質向上委員会会議（毎週）」を実施し、審議しています。

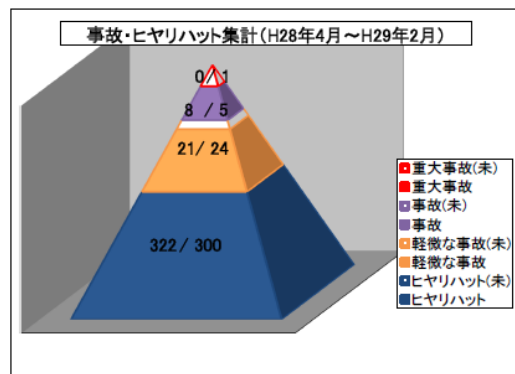
毎月第1営業日に実施している安全衛生会議では各部からのヒヤリハット事例の紹介、事故情報・人為ミス事例の報告、健康管理、車両安全、社内／社外安全パトロール報告、月の安全衛生テーマ等について協議しています。会議の終わりは安全唱和で意識を共有しています。

“安全はすべての業務に優先する ヨシ！！”

安全衛生会議会議進行表（毎月1日・休日の場合は翌日）

1. 先月会議時のベンディング事項の対応等の発表
2. 先月の工事事故・人為ミス・ヒヤリハット事例報告および対策。
3. 1. の報告についての各自の意見を求める。
4. 健康衛生関係。司会者が事前に資料等を準備して、発表して下さい。
5. 車両安全管理者からの報告 1) 車両不具合報告と対処 2) 点検車両の日程、オイル交換、車検予定など。その他報告。
6. 安全運転管理者から 1) 各種資料の提示 交通事故事例その他
7. 社内安全パトロール結果報告（実施月（奇数月）の翌月安全衛生会議時） ※2Fから報告 1) 職場管理についての問題点、対策、結果の発表 2) 火元取締りについての問題点、対策、結果の発表
8. 社外現場安全パトロール（実施月の翌月安全衛生会議時） 1) 場所、工事件名、概略工事内容、施工体制を簡単に述べ、パトロール結果を発表 2) 発表内容について、意見、質問を求める
9. 他社の安全衛生関係への参加報告
10. 他社の事故事例
11. 業務改善「1秒短縮提案」 時間コスト削減の為に提案を発表
12. 環境整備報告 先月の環境整備のチェック結果を報告。 先月指摘のあったフロアの改善状況を確認。
13. 先月の賞罰報告
14. その他、各自で言い忘れたことなど、何でも結構です。
15. 先月の安全衛生テーマ（唱和事項）の達成度確認
16. 今月の安全衛生テーマ（唱和事項）の決定
17. 次回司会担当部門について
18. 安全衛生委員会の場所・開始時間を伝える
19. 安全唱和し、会議を終了する。 「安全はすべての業務に優先する。ヨシ！」 「これで安全衛生会議を終了します。」

*安全衛生会議の進行表



重大事故	0
事故	8
軽微な事故	21
ヒヤリハット	322

重大事故	通信停止／1週間以上の入院／機密情報の漏えい／建物等破壊
事故	
軽微な事故	通信停止にならない断線き／切断／カスリ傷程度／メール・FAX誤送信
ヒヤリハット	事故の前に留まったもの

1・当時の自分自身（健康状態。疲れが溜まっていた？時間に遅れた。遅刻しそう）
2・周囲の環境（当時は暑かった？雨が降っていた？）
3・設備（古い建物？PCのアプリ等は最新の情報？道路にカーブミラーは付いていた？）
4・作業自体（当時の作業自体、方法に問題はなかったか？手順書は？）

上記の1から4までに当てはめて、起きてしまった事故、ヒヤリハットを検証してみよう

1・当時の自分自身	203
2・周囲の環境	88
3・設備	43
4・作業自体	163

*ヒヤリハット事例の集計

2. 作業所における安全衛生活動

職場、現場での安全対策が確実に実施されているか安全パトロールを行っています。特に現場においては、作業日報兼 RA-KY 活動報告書、作業指示書、施工図面、緊急連絡先、体制、服装、作業区域表示、養生、駐車場の状況等をチェックしています。



* リスクアセスメント活動



* 現場安全パトロール

3. 能力向上と教育

各種技能資格取得に向けた支援として、社内に情報通信系、工事系、語学系のトレーニングセンターを設置し、新人研修の他、作業前の実践訓練などに活用しています。また、トレーニングセンター内の設備を利用し、国家資格の勉強をすることもできます。



* 新人研修（アンカードリル実習）



* 工事系トレーニングセンター

4. 安全衛生教育

ヒヤリハット事例、事故情報、人為ミス事例を参考に安全衛生教育を実施しています。

事故事例に対し、視覚で理解できるように事故現場を再現し、全員で原因と防止策を確認します。また、外部講師をお願いし、現場の安全教育も定期的の実施しています。



*安全衛生会議での事故事例の検証



*現場安全品質教育

5. 健康管理

健康管理として産業医による毎月の健康相談や健康障害などをテーマに健康講話を実施する

他、健康診断のフォローとして未受診者への通知や要再検となった方への通知も行っています。

産業医の先生からは要再検者に対し、コメントをいただき、参考情報として該当社員に通知しています。健康診断、ストレスチェック共に受診率100%を目指します。



*産業医による健康講話



*AED研修

6. その他活動、支援

①地域貢献：ビーチクリーン活動（危険金属除去活動）

毎年、新入社員研修の中で海岸の危険金属除去作業を実施しています。作業には専用の金属探知機を使用し、釘や金属類などの危険物を見つけます。地域の安全と環境を守ります。



* 金属探知機を使用したビーチクリーン活動

②車両安全運転の促進

車両運転に関し、半年毎に無事故・無違反であって、一定の走行距離以上の社員に対し、奨励金を支給しています。奨励金制度を開始してからの事故発生率が低下していることから効果を実感しています。また、車両事故に対しては現場を再現し、原因と対策を検討するなど再発防止に努めています。

第5章 無事故・無違反奨励金の支給	
(支給条件)	
第16条 運転者で次の各号に該当する者には無事故・無違反奨励金を支給する。但し管理職は除く。	
(1) 自社所有車、またはレンタカー運転のこと。	
(2) 半年（1～4月、5月～10月）、業務中において無事故・無違反であること。	
(3) 対象期間内の走行距離が第17条に定められた基準を満たしていること。	
(4) 自己申告制及び確認提出とする。	
(5) 対象期間内に業務中及び業務外において、免許を1回以上受けた場合は、対象期間は支給対象外とする。	
(支給基準)	
第17条 支給については半年毎に走行距離を集計し、距離に応じた支給金額を賞与時に支給する。	
走行距離	支給額
10000km以上	50,000円
8000km以上	40,000円
6000km以上	30,000円
4000km以上	20,000円
2000km以上	10,000円

* 無事故無違反奨励金の規定

(実験)

(凡例) ハイエース カラーコーン

(実験内容)
ハイエースの死角に立っている者が運転手に足元が見えるまで少しずつ離れていき、足元が見えた位置を測定することで、ハイエースの死角を確認する。

(実験結果)
全死角、車体の大きさ、駐車スペースは以下のようなものになった。
(A)前方の死角 : 3800mm
(B)横の死角 : 4300mm
(C)車体全長 : 4690mm
(D)車体幅幅 : 1690mm
(E)駐車スペース : 2350mm
(F)駐車間スペース: 5700mm

(考察)
ハイエースにはミラー無しだと前方3800mm、横4300mmと、とても大きな死角があった。しかしミラーを見ることで、死角は激減した。以上のことから、ミラーの重要性を確認することができた。

(写真)
I 前方の死角を測定している様子
I 前方の死角の測定結果
II 横の死角を測定している様子

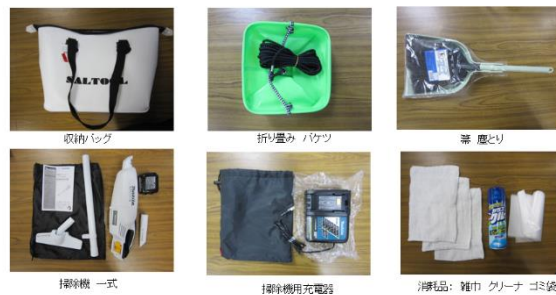
* 駐車場での巻き込み事故の実験報告書

③QSC活動（クオリティー・サービス・クリーン活動）

環境整備はサービスと品質向上の第一歩と考え、「Quality Service Clean 活動」を推奨しています。現場での作業終了時に入場時よりも綺麗にして退場できるように、日頃から当社事業場では、始業時からの15分間を「環境整備」の時間として定め、作業環境整備と社内清掃を社員全員で行っています。



*朝の環境整備



*工事車両には清掃用具一式を整備

④防災訓練

不測の事態に備えて、年1回5月に防災訓練を実施しています。訓練では、避難場所までの移動、避難梯子の利用、非常電源の運用訓練、安否確認訓練、防災用具の点検などの他、防災備蓄食を昼食に食べるなどして防災意識を高めています。

また、社内にはAEDや緊急地震速報専用端末も設置し、社員の安全を確保しています。



*防災備蓄食の試食会



*避難梯子の訓練

以上